

## 中世宇都宮氏と宇都宮歌壇の成立

栃木県立博物館 山本 享史



藤原定家の山荘「時雨亭」跡地(京都府京都市・二尊院境内)

平安時代後期にさかのぼる宇都宮氏の成立以来、一族による在京活動は、京都やその周辺を中心に宗教や文化面で優れた功績を残した。たとえば、宇都宮氏三代当主の朝綱は、源平合戦で焼失した東大寺大仏殿(奈良県奈良市)の復興に携わり、本尊盧舎那仏坐像の左脇侍観音菩薩像を造立している。今回は、「百人一首のまち宇都宮」の源流である、五代当主頼綱と歌人藤原定家の交流を契機とする宇都宮歌壇の成立について紹介したい。

鎌倉時代に京都・鎌倉と並ぶ日本三大歌壇の一つに数えられた宇都宮歌壇は、その象徴として百人一首の成立に頼綱(法名蓮生)が深く関与していたことが挙げられる。若くして出家した頼綱は、京都で隠棲生活を送り、定家の小倉山荘(時雨亭)の隣接地に中院山荘を構

えた。頼綱と定家は姻戚関係を結んでいたこともあり、二人には和歌を通じた密な交流が生まれた。百人一首は、定家が頼綱の依頼により中院山荘の障子色紙に和歌を選んで書いて送ったことが、その成立のきっかけなのである。

定家は、頼綱の子の六代当主泰綱にも目をかけ、約一千首を載せる古今和歌集を書写して贈っている。そして、頼綱とともに宇都宮歌壇の中心となったのが、弟の塩谷朝業(法名信生)や甥の笠間時朝ら宇都宮氏一族であった。彼らもまた上京して多くの文化人と交流し、それぞれ歌集「信生法師集」、「勅撰并打聞入長門前司時朝歌」を残している。

頼綱は鎌倉幕府初代執権の北条時政の娘を妻としていたが、子の泰綱以降、宇都宮氏と北条氏との結びつきがいつそう強まった。泰綱の娘が四代執権の北条経時に嫁いだほか、七代当主の景綱の弟経綱は、定家と親交のあつた歌人北条重時の娘を妻に迎え、さらに八代当主の貞綱は、重時の子で同じく歌人の長時の娘を妻に迎えている。このことは、宇都宮氏の政治的な志向性が京都から鎌倉に移ったことと軌を一にし、重時一族との和歌を通じた交流もこのような流れの中で行われていたとみられる。

このように宇都宮氏による文芸活動は、泰綱、景綱、貞綱らにも継



宇都宮頼綱(蓮生)の山荘「中院山荘」跡地(京都府京都市)

承され、婚家の選定にまで影響を及ぼしていた。宇都宮歌壇は、こうした京都・鎌倉それぞれにおける文化的交流を咀嚼した上で形成されたのである。宇都宮氏一族を中心に京都鎌倉の歌人の和歌も収録する「新式和歌集」(原型の成立は鎌倉時代。江戸時代の写本が宇都宮二荒山神社に伝存する)は、こうした宇都宮氏による活発な文芸活動の集大成といえる。

宇都宮氏菩提寺の一つ三鈴寺(京都府京都市)には「宇都宮系図」(室町時代の写本)が伝存し、頼綱に「歌人」と傍注を記している。同じく室町時代に成立した御伽草子の一つ「猿蓑氏草紙」には「ことに宇都宮は歌の道すきなるよし」と表現されている。頼綱を中心に形成された宇都宮歌壇は、後世においても宇都宮氏一族にとつて誇りであり、全国にも広く知られた一大文化ネットワークであったといえよう。